

■織田有楽斎(長益) 大名・茶人。野心を持たずに激動の時代を生き延び、利休十哲の一人で有楽流を創始。有楽町に名を遺す。

おだうらくさい(ながます)

勘合船終・・・1547＝

織田信秀の十一男、信長の妹お市の方と同年に、信長の13歳下の異母弟に生まれる。

通称源五郎。母は信秀の側室と推測されるも不詳で、若い頃の事歴も知られないが、

ザビエル来日1549＝ 2歳：

傳役には、信長と同じ平手政秀が付き、「言継卿記」に'もてなしを受けた際、大変感銘した'という記事があるように、政秀は教養豊かな人物で、その影響を強く受けて、文化や学問を尊ぶ気質に育ち、

川中島の戦始1553＝ 6歳：政秀が、信長の奇行を諫めるべく切腹するが、のちに、政秀の娘を正室に迎えるほどの関係であった。

・・・・・・1556＝ 9歳：

將軍義輝自刃1565＝18歳：

岐阜楽市楽座1567＝20歳：信長による美濃攻めで、稲葉山城の戦いの前哨戦森部の戦いで初陣するも、何も武功もなかったが、

織田信長入京1568＝21歳：

信長からは、学問や文化に秀でた才能を見抜かれ、以後、実戦よりも、交渉役や文化交流、小姓達の教育係などに重用される、武將の野心とはほど遠い存在になり、

三方原の戦・1572＝25歳：甥にあたる信長の長男信忠が元服すると、その旗下に付けられ、

長島一揆鎮圧1574＝27歳：尾張国知多郡を与えられ、大草城を改修。

本能寺の変・1582＝35歳：

信忠に従い甲州征伐に従軍し、武田家滅亡後、降伏した城代馬場昌房からの深志城(松本城)の受け取り役を務める。*この前後、堺の豪商で茶人の武野紹鷗を師に、茶を始めたといわれるが、本能寺の変の際は、信忠とともに二条城にいたが、明智軍に攻められ、信忠が自刃するのにもかかわらず、脱出し、安土を経て岐阜へ逃れ、噂はすぐに広がって、武將として失墜。甥の(信長の次男)信雄の庇護を受け、検地奉行などを務める。豊臣秀吉が明智光秀を討って、織田家の行く末を決める清州会議が開かれ、秀吉が立てた、信忠の嫡男で、わずか3歳の三法師に決定、信雄と信孝の2人をその後継人とするが、まもなく秀吉は、取り決めに反故にして、信雄のみにしたため、信雄を担ぐ豊臣秀吉派と、信孝を担ぐ柴田勝家派で、争いになり、

賤ヶ岳の戦・1583＝36歳：

賤ヶ岳の戦いで、秀吉派が勝利し、勝家に再嫁していたお市の方は、勝家と共に自害。信孝も戦の責を問われて切腹すると、秀吉が信雄も排除しようと動き出したため、ともに、徳川家康を頼って同盟、

長久手の戦・1584＝37歳：

小牧・長久手の戦いに、信雄方として徳川家康に助力するが、突然、信雄とともに、秀吉と和睦、大義名分を失った家康は終戦、以後、秀吉配下として、徳川家と豊臣家の和睦交渉役を担い、

刀狩海賊取締1588＝41歳：

豊臣姓を下賜されるに至る。この頃には、千利休について、

・・・・・・1589＝42歳：

お市の方の娘淀殿は姪にあたり、その庇護者として、この年の鶴松出産の際も立ち会うほどで、

秀吉全国統一1590＝43歳：

*秀吉が家康を関東に国替えさせ、その旧領に、信雄を国替えしようとしたところ、美濃から離れたくないと断って改易になると、剃髪して有楽斎と称し、秀吉の御伽衆に加えられ、摂津国に2000石を拝領。

土農工商公布1591＝44歳：

秀吉から、利休が切腹を命じられた時には、高弟であり、のちには、利休十哲のひとりとして称される。

文禄の役・・・・1592＝45歳：

豊臣秀吉没・1598＝51歳：

秀吉死後、家康と前田利家が対立した際には、徳川邸に駆けつけ警護し、

関ヶ原の戦・1600＝53歳：

関ヶ原の戦いでは東軍に属し、長男長孝とともに参戦。旧知の敵將と対して落馬という恥の一方、石田家臣の蒲生頼郷を討取るなどの戦功を挙げ、大和国内で3万2000石、長孝は美濃野村に1万石を与えられた。

朱印船制始・1601＝54歳：

その後豊臣家に出仕を続け、淀殿を補佐して、

家康駿府退隠1607＝60歳：

この間、大甥である豊臣秀頼から拝領したと伝えられる来国光作の短刀は国宝になっている。

琉球使始・・・・1610＝63歳：

大坂冬の陣・1614＝67歳：

大坂冬の陣の際にも大坂城で、穏健派として徳川家と交渉、強硬派の次男頼長とは対立。

大坂夏の陣・1615＝68歳：

*三男俊長と共に和睦を締結させるが、実はスパイ役であったという説を裏付けるように、再戦の機運が高まると、家康・秀忠に対し、'誰も自分の下知を聞かず、もはや城内にいても無意味'と申し出、許可を得て豊臣家を離れ、京都に隠棲。存命の四男長政、五男尚長に1万石を分け与え、自らは隠居料として1万石を手元に残し、以後、江戸や駿府に度々旅行しながら、茶の湯に専念して、有楽流を創始、

徳川家康没・1616＝69歳：

キリシタンになったとも言われ、自らのクリスチャンネームにちなんだ名の、

・・・・・・1618＝71歳：

(現在、国宝に指定されている)茶室(如庵)を、建仁寺の子院正伝院を再建するとともに設けて、

菱垣廻船始・1619＝72歳：

元和大殉教・1622＝75歳：

大殉教の年、京都で、没した。

ツバキの一品種「太郎冠者」は、有楽斎が愛したことで、「有楽」ともいい、学名もCamellia urakuになっているという。東京の有楽町の名は、ここ到有楽斎の屋敷があったからといわれ、大阪にも、明治初期には、有楽町があったという。